

1977 年 12 月 3 日 第三種郵便物認可 (毎月 18 回 1・2・3・5・6・7 の日発行)
2025 年 7 月 27 日発行 通巻 8747 号 SSKP たこの木通信 453 号

SSKP

たこの木通信

453 号

(2025/7)



電話：042-389-1378

E-MAIL：takonoki@dream.jp

ホームページ：<https://takonoki.net/>

郵便振替：00100-2-24685

2025 年度たこの木全体会報告

岩橋 誠治

去る 6 月 22 日。多摩市諏訪市民ホールにて、8 名の参加者を得てたこの木全体会が開かれました。

冒頭、岩橋よりこの間たこの木通信でお伝えしてきた事をその想いも含め長めに語り、それを受けて参加された皆さんから様々なご意見や提案をいただきました。

たこの木が発足して 37 年が過ぎました。当初より「地域でともに生きる」という願いに変わりはありませんが、その具体的な取り組みは大きく変化しています。

発足当初は「子ども達どうしの関係づくり」を中心とした活動でした。年を重ね子ども達が成人していくと、障害のある者のみを取り残され地域から奪われる状況が生じ、「障害当事者の地域生活や自立生活を支援する」課題へと大きくシフトしました。

発足当初は、教育委員会の指導室や学校を相手に交渉を重ねました。地域という点では公民館や学童クラブ・児童館と言った場とのつながりをメインに取り組んでいました。課題をシフトした後の交渉相手は、もっぱら障がい福祉課や生活保護課に移り、自らも事業所を立ち上げ当事者の暮らしを支援するために、他の事業所とのつながりを密にしてきました。

ふと思い起こすと、たこの木通信のインフォメーションのページは、かつて「たこの木交差点」という名で、地域の様々な活動の案内が載っていました。すなわち、地域丸ごとの関わりでした。気づけば障害当事者に焦点を当て、障害当事者支援にまつわる案内ばかりになっています。

時代が進み、近年地域で暮らす障害当事者の支援にまつわる制度も進みました。意識ある人たちが制度を活用し、重度知的当事者や行動障害と評される人たちの一人暮らしや地域生活にかかわる人たちも増えてきました。

そのように状況が変化する中、たこの木も今年度を境に変化する必要を感じ今回の全体会に臨みました。

前号までにお伝えした通り、たこの木としては制度を介さない当事者たちとの関わりを求め、私は今年度中にヘルパーという立場を辞すことになりました。それに伴い、現在ヘルパーとして担っている取り組みを様々な形で他方に譲る取り組みに着手します。又、その事でスタッフである横田さんにこれまで通りの給与が払えなくなるため、横田さん並びに横田さんが関わっている当事者ごと他の事業所

に移籍する方向で進めていくことになりました。(私は、子育ても終えて最低限のお金があればなんとかかなるだろうという考えてます)

尚、はてなのたねに登録し特定の当事者の介助を担って頂いている方たちについてはこれまで通り。ねじり草の取り組みは、助成団体からの助成が続く限り継続していきます。(当日配布の資料あります。連絡いただければ PDF でお送りします)

そして、参加された方々からのご意見は

○たこの木通信について

- ・現状人手不足が深刻だが、発行作業のアピールや応援団の形成に取り組み、引き続きたこの木通信の発行する必要大。
- ・ヘルパーという形あるものが無くなれば、たこの木は何をやっているかが見えなくなる。岩橋の動静報告も含めた記事を載せる必要あり

○集まる場を増やす

- ・説教にならないように注意しながら、いろんな人が集まる場を増やす
- ・連続講座や自立生活支援を考える会等々いろんな人とともに考えられる場等。

○当事者の側に立って制度を利用する

○現在普通学級に通う親たちにたこの木の存在が知られていない。その事で今の普通学級がどうなっているかが見えない。

○その他諸々

皆さんからの話を伺う中、これまでは良くも悪くもヘルパーという枠やそこから生まれる資金をもって活動できていたものが、枠がなくなる事で自由に動ける反面、これまで以上に様々な取り組みと発信が必要になるのだと思いました。

又、全体会を受けてさっそく具体的に事を進め始めましたが、制度による保障がない中で担ってきた事柄を他の方たちに委ねる事や制度はあってもその担い方によっては「毒にも薬にもなる」事をいかにするか？早速壁にぶち当たっています。

又、私個人の性格としては、自らが当事者自身の暮らしにかかわり、個々の具体的な暮らしの中で当事者とともに考える事から指向してきました。現状、そのやり方では追い付かないほどの相談や対応を必要とする機会が増えているのですが、当事者の暮らしと直接かかわらない立ち位置で何をどのように指向できるか？正直不安な面もあります。でも、昨今先人たちが年々なくなる中で、私自身もいつかなくなることを考えると、新たな立ち位置から改めて様々な事を思考して

いきたいと思います。

今年度は、新たな立ち位置を築くことをメインに、新生たこの木として取り組むことを模索していきます。

しかしこれは、決してたこの木や私の力で回せるものではありません。制度として担う人たちの存在を確かなものとしつつ担い手が増え、自立生活を欲する人たちが増えつつある中、たこの木としてはこれまで以上に、人と人/事柄と事柄が様々な人が行き交う地域の中で結びつくような、アメンバーのごとく隙間に入り込み、様々な立場や取り組みや人々の存在をジグソーパズルのようにつなぎ合わせるのではなく、のりしろを設けさいころを組むことための糊のような役で各々の面が繋がっていくような役が担えればと願っています。

かつて、三井さんを中心に開いてきた自立生活支援を考える会。当時はまだまだ一人暮らしを営む重度知的当事者は限られていたのですが、今日様々な形で自立生活を実現する事例が増える中、改めて自立生活支援を考える会を開きたい。又、この間連載している重度訪問介護にまつわる話や成年後見制度等の諸制度についての学習と活用法について考えたい。又、この間自らの現場の課題がいつぱいでお断りしていた講演依頼も受けて、様々な立場の人と課題を共有しともに考えていきたい。さらに言えばかつて「当事者に語る場を」と当事者講演会の機会を求めていたような場を改めて求めていきたい。

また、全体会で出された学校を巡る話や子ども達の事についての課題を横に置きっぱなしにしてきたものを改めて取り組み、その先の自立生活や支援につなげていきたい。

やりたくてもやれなかった事は際限なくあるものの、永遠に続けられる事はない現実が近づく中、広げた風呂敷をたたむことも思考しなければとも思います。

そんな事を思いつつ、当事者たちの日々の暮らしが制度によってある程度回り始めている今こそ、そこからはみ出る/未だ課題にさえなっていない事を巡り、たこの木発足の初心に立ち返った取り組みを進めていきたいと思います。

そのためには、具体的に活動面での協力やともに企画を立ててくれる方の存在が不可欠です。さらには、これまで自らも事業を担うことで得られる給付費頼りの活動が続けられていましたが、それも今後は発足当初と同様に会費やカンパという形での資金面での協力を切に願うものです。

まだまだ何も取り組めていませんが、これからのたこの木をともに考え支えていただけると幸いです。

政治は生活に直結しているとかっていうけど「生活」って何？

横田彰敏

タバコなんかもタバコを吸う楽しみっていうのがね「欠かせないんですか？」っていうふうに正面きって問われれば「そこまでじゃないです」っていう人が多かったからこそ喫煙率は急に下がってきているんだと思うんですね。でもやっぱり、そこまでじゃないんですけどもというのが 10 も 20 も重なって普通の人の生活というのはできてるんだと思うんですよ。それをだから一個一個取り出してそこまでじゃないからと言って全部ぱっきりと切り捨てて目的のために最適化した生活をするそれが楽しいかっていうと楽しい人もいるかもしれないけれども、まあ、殺風景だなと感じるのが普通の感覚じゃないかなというふうには思うしやっぱりそういうこう雑然としか生きられないというのが人間という生き物だと思うんですね。夜更かししてだらだらスマホ見ちゃうとか、だらだらテレビを見ちゃうとか、やめときゃいいのにお菓子つい食べすぎちゃうとか、あるじゃないですか。遊びにいつていつつい寄り道しちゃうとか。

それこそが生活だという観点が大事だと思うんですよ。

別に何かの目的に供しているわけではないんだけどでもやっぱり生活のなかで何かの目的のためにこれをするというふうに組み立てようとすればするほどその部分の生活は自分のものではなくなってしまって自分の人生そのものがその目的に奉仕するという順番になっちゃうんですね。そうすることによって大きな仕事を成し遂げる人はいるんですけども、みんなにすすめられるような生き方じゃないし、ましては医者というのは弱っている人を助ける立場ですからそういうみんなに対して偉人になれないみたいなことをアドバイスするというのはナンセンスだと思います。

これって私が考えた文章じゃなくて文字起こしなんですよ。YouTube を見てたらいい事言うな一って思って、これはたこの木通信読者にも是非文字起こしして読んでもらおうと思って文字起こししたのが上記の文です。選挙とかでも政治は生活と直結しているからどうのこうのとかってよく聞かし、たこの木でも「生活だから」とか「生活が成り立たない」とかってよく耳にしたりもするのだけどじゃあ生活ってなに？ってあらためて考えると極めて抽象的な感じ、漠然とした感じで私はよくわからないのだけどこの YouTube 聞いてたらすごく納得した気がして。でなんの YouTube かという「街録チャンネルあなたの人生教えてさい」というすいいちの人たちに聞いたら結構有名な YouTube 番組みたいでその「東大医学部卒業後無職.../医学の嘘を暴露/禁煙グルテンフリー断酒 健康に毒される日本人」というタイトルで大脇幸志郎さんという東大医学部でてしばらく無職した後医者になっていまは患者さんの

自宅で医療する訪問医師のインタビュー。「健康」から生活をまもる 最新医学と 12 の迷信」という本も出されているらしい。このインタビューは続きがまだまだあってまだもう少し文字起こししたのでそれをこれから読者のみなさんに読んでもらいたいのだがこれから紹介するのは少し、いや、かなりたこの木通信読者には反感をくろうというか不快になる部分があると思うし私も肯定しかねるところもあるのだがそれでも文字起こししながらなんども聞いていると深く考えさせられる部分が多いです。では続きをどうぞ

インタビューアーの質問 アスペルガー症候群とか近年急増してるって事でもあるんですかね？

これは実際問題わからないです。私は別にその現代社会が、そういう自閉症とかねアスペルガーみたいな精神の異常を誘発するようになっているとは思わないです。別にその現代社会がそんなストレス社会だとも思わない。というのはちょっと 100 年か 200 年遡ってみるとそこにはちょっと油断すると死ぬ社会があったわけですよ。ちょっと油断すると死ぬという状況よりも今の方がストレスは少ないですよ。どう考えたって。

日々のちょっとした不満とか不快とかやりきれなさみたいなものが大事なんだという価値観が肥大しているというふうに捉えた方が正確だと私は思います。だからストレス社会になったのでそういうところの歪みが増えてきたみたいな、またそういう捉え方みたいなのは納得いかない、事実ではない。そういう医療陰謀論みたいなものってあるわけですよ。なにかっていうと病気が増えているのは医者が勝手に健康な人に病名をつけまくっているせいだと、なんでそんなことをするかといったら医者が自分の仕事を作りたいだからとか、あるいはその製薬会社から製薬会社と癒着していて薬を売りたいだからとかという物語が一部にあってそれは事実の一面を捉えてはいるんですね。確かにやめときゃいいのに薬を出すという現実があります。ですけれどもこれほどまでに色々な人が「私は自閉症なのでとか私 ASD なんて」みたいなことをぺちゃくちゃ言い始めるというのはそれだけじゃ説明がつかないと思うんですよね。むしろ病名を使って自分を語るファッション性みたいなことを考えた方がいいと思っていて、それがやっぱり文化として豊かじゃないというのが私の直感です。これはあんまり上手く説明できないですけど、自分のアイデンティティを語るうえで、こういう病気なんてとか、こういう生活に生まれついているんで、みたいな事っていうのは、医者の言葉を借りてきていうって言うのは文学の蓄積って一体どこにいったんだろうって感じになるんですよね。

まだまだ続きはあるのだが、こうして文字起こしすると、とても示唆に富んでいるというかじっくり考える価値がある大脇幸志郎さんの言葉だと思う。(横田)

たこの木を讃える回

あ

前号の通信で、岩橋さんが「たこの木の今後」について書いていた。「たこの木縮小プラン」と言えると思う。40年前に岩橋さんが1人でやっていた頃に戻る、ということかも知れない。前から言っていたことだし「有言実行」だ、さすが岩橋さんだと思った。私のように「感心」まではしなくても、読んだ人の多くは納得したと思う。その中で、たこの木の内情を知る人は、たこの木のことで、ほぼ全員が横田さんのことを心配したはず。それですぐに横田さんに会いに行ったら、元気そうだった。これまでに作ったつながりで引く手あまたという状況のようだ。せつかなので、たこの木の良いところを書いてみる。

かつて「まくら木」や「あしたや」が「株分け」という形で分かれていった。事業が増えていけば、経営も安定するし行政などへの発言力も増すだろう。人も雇いやすくなるし、新しい事業も始められる。うまく行っている事業を、制度に縛られない「原点のたこの木」から切り離していくというのは(自分は事業やったことないので想像だけど)難しいことだと思う。

どちらかというとポジティブな捉え方になるのは、昔の岩橋さんの通信の記事を読んでいるからだと思う。実際のところは「円満」とは行かない色々な議論があったと思う。分けた「株」の方がずいぶん大きいことや、岩橋さんの昔の文章の行間を読むと、じつは「岩橋さん一人を放出した」だったりして、と想像もした。・・・おっと今回は「讃える回」だった。かつてのアップル社がスティーブ・ジョブズを追放したように、天才はどうしてもはみ出してしまうのです。

外から見た姿と、「内情」と、どちらがより正しいとか優劣はなさそうだと、たこの木で学んだ。15年くらい前に地方にいて岩橋さんのツイッターを読んでいて、これは良いなと憧れて、たこの木のヘルパー部門「はてなのたね」で働くようになって「近くにいと色々あるね・・・」と思うようになり、小さな企画と一緒に作業するようになったら「これは大変だ」頭を抱えた。こちらも迷惑かけてるので「お互いさま」ではある。遠くから見ればよく見えるのは良いことも多い。「余白」が多いから、自分の憧れや理想を重ねられる。それで現状を変えたり進む先がイメージできるなら、とてもいい「錯覚」だ。錯覚は語感がよくない。世の中の多くのことはそういう「想像力」とか、異なるものを関連付ける力で動いていると思う。

すこし脱線して・・・一部しか見えないからこそ良いこともある。知的障害のある人の支援でよく感じるのは、コミュニケーションが不完全に終わったり、謎のままの部分があるから、そこに支援者の理想や社会への違和感を投影しやすいこと。いわゆるコミュ症相手と違うのは、支援者に合わせて返してくれる。しかもそれが絶妙の確率で起きるから「自分だけが通じ合えた！」となる。これは依存のおそれがあり問題提起も少しあるけど、それが他者を助けたり、社会を変えようとする原動力になってきたんだと思う。

近くにいたことで馴染んでしまって外から見た姿が分からなくなっただけで、たこの木の「底力」を感じたことがある。たこの木とは関係ない現場の利用者さんで、なかなか居場所・行き場所がなく、行けてもトラブルになる。暴力も性的なこともありえる。ヒヤヒヤしながら連れてきてみたら、思いのほか馴染んで、しばらく通っていた。ヘルパーの自分も、これまで感じたことのない「安心感」があった。すべてを受け入れてくれる感じ。世の中の様々な「居場所」の中で、なかなか馴染めない人も受け入れるところがある。すばらしい取り組みがたくさんある。トラブルがあっても大変な状況でも、「また来てください。待ってます」と言ってくれる。でも一部のスタッフ

1977年12月3日 第三種郵便物認可(毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行)

2025年7月27日発行 通巻8747号 SSKPたこの木通信453号

や参加者は、そうではない。それが一部から多数になって「私はいいいのですが・・他のメンバーの意見もあって・・スミマセン」それはそうだ。自分もそれがいいと思う。だって本当に大変なときは本当に大変だから。

「絶対だな?！」怒りながら支援者に問いかける人をたくさん知っている。かつて誰かから言われた無理難題なんだろう。そう言われても困る。絶対なんか無いからね。ただ、ここにはそれがある。岩橋さんは物事を超越しているのではほぼ絶対に「来ないで」とは言わない。それは特にニュースでもない。横田さんをはじめ他のスタッフたちも言わない。ブーブー言いながらも、その選択肢は手元にないようだ。従業員だから自分を抑えたり、勤務時間が終わるまで耐えているのかもしれない。

場面は「すいいち企画」なんだけど、そこに来ている常連参加者たちが、何か言うわけではないが当然のように受け入れ態勢なのがとても頼もしかった。過去のたくさんの騒動を経ても続けて来ているし、新しいお客さんが来ると、スタッフ以上にもてなす人がたくさんいる。そういう人が集まっているとも言えるけど、「たこの木はそういう場所」だと思ってやっていると、そばで見て感じた。

たこの木が特別だと言いたいわけではない。世の中たくさんの取り組みがあるから、特別だと言ったら特別でなくなる気がする。勝手を知ってる身内の場所だからだとは思うけど、「ここなら大丈夫だ」という深い安心感は、初めて感じるものだった。それが合わなくて離れた人もいるだろうし「そういう人しか残ってない」のが本当かもしれない。でも、そういう内情を超えた実感があった。

ある大学の人が調査で、私が入っている現場に通って聞き取りをした。ヘルパーの仕事内容や待遇、何が大変で何にやりがいを感じるか、などを聞かれた。学生などから、ヘルパーの仕事がイメージできず踏み出せないという声を聞くので、実態を伝えて関心を持つ人を増やしたいという。働きやすいし待遇もイメージされるものより良いですよ、と話しつつ「内情・実態も伝えねば」と思って、キャリアが見えにくいし、長くやっても別業界どころか福祉でも別分野に移りにくいかもしれない、とか容易に孤立したり孤独感を感じやすい、とか話した。

昔、CILでヘルパーを始めたばかりのころの孤立感が原体験?になっていて、つい出てしまう。調整業務などをしだすと、ヘルパーや家族と連絡を取るし顔を合わせることが増える。すると忘れて見えなくなってしまうが、それ以外の大半のヘルパーはしんどいことも多いはず。今のところは、仕事は食い扶持で別に趣味や活動のある人が多くて持っているが、将来的にはどうだろう。

最後にテーマについて改めて聞くと、まだ広くは知られていない知的分野の重度訪問介護について調べて、普及の一助となればとのことだった。ベテラン面して答えていたのが恥ずかしくなった。そういえば始めた頃は、地方では例がなかった知的の自立生活について学びたいと思っていた。広がったとはいえ認知としては今も状況は変わらないと思う。内情は詳しくなったけど、これが全国標準のように錯覚していた。「初心」を忘れて日々のルーチンをこなすだけになっていたと思う。気持ちを改めて何かする、という予定は今のところないけど、せめて通信の内容は「日記風」を改めて支援のこともたまには書こうと思った。

社会へ向けてその16

立野 陽太

ゆたかカレッジ早稻田キャンパスでは7月11日に余暇活動で「葛西臨海水族園」に行きました。今回の集合場所は「私たち4年生が所属しているビル」、「ビッグボックス」、「葛西臨海公園駅前の噴水広場」の三つの選択肢がありました。私は「現地集合」を選択しました。自宅から葛西臨海公園までの行き方は西武柳沢駅まで(徒歩)、(西武新宿線)高田馬場、(東西線)茅場町(日比谷線)八丁堀(京葉線)で行きます。そのあとは班毎に行動して、「シー・ウィンド」で昼食をとりました。私は「まぐろカツカレー」を食べました。ちなみに葛西臨海水族園では「サメ」、「ペンギン」、「マグロ」などを観ました。話は変わりますが、現在連載しているたこの木通信の「社会へ向けて」は次回で最後です。どうぞよろしくお願いいたします。



北向きの玄関の扉をあけると
 オレンジ色の光が右手から
 さあっと
 入ってきた。
 おはよう！
 思いがけず、
 遠くから会いに来てくれた
 友人のよう。
 びっくりしていきと
 外はもう
 ことりアチの さえずり
 ゆれる 花々
 草の上の光る 水滴
 夏か来たんだね。

理乃さん、髪をカットしてもらった。
 今回は、いつも美容師さんか
 りのさしに来てくださった。
 髪を切ってもらいながら、いろいろ
 おしゃべりした。
 私は美容院へは20年近く行って
 いない。はずかしいし、会話を
 苦手だった。でもなぜか、理乃
 さんといると、おしゃべりになる。
 理乃さんか 社交的だから？
 美容師さんが、あしたやを知らな
 かったと言った。「かき揚げとか、
 野菜とか、買いに行ってるよ。」
 「理乃さんも働いてたんだよ。」

「ここで一緒に暮らしてる
 聡子さんは、今も行ってる。
 木曜はタマゴ
 揚げてるよ。」理乃さんは
 「はらっぱで接客も得意
 だったんだよ。」と言ったら、
 「はらっぱも行くよ。」と美容
 師さん。「あしたや みどり
 織りもやってたよ。壁の写真
 見て！」「か、理乃さん。」
 「理乃ちゃん(美容師さんは
 理乃さんより年配のよう)
 には、いつも誰かついて
 くるの？」

たこの木インフォメーション

たこの木クラブ公式ホームページの URL は、<http://takonoki.net/> です。

2025 年度たこの木全体会当日配布の資料が欲しい方は
たこの木まで連絡ください。PDF 版にてお送りします。

◆会員募集募集中！

2025 年度会員登録をお願いします！

たこの木会員 ¥6,000/年 賛助会員一口 ¥3,000/年

通信購読会員 ¥1,200/年 目標額 120 万!!

郵便振替 00100-2-24685 たこの木クラブ

銀行振込 三井住友銀行 永山支店 普通 6424332

※銀行振り込みをご利用の方は、メール等でご一報いただけると
ありがたいです

《定期の予定》

・毎週水曜日 13:00～18:30 すいいち企画 たこの木ひろばにて

・第3木曜日 10:30～17:00 たこの木通信発行作業日

＜その他の予定＞

・フィットする支援をめざす会 7 月 1 日(火)19:30～ZOOM及びたこの木

※譲ってください

書き損じのはがき

事務用品(ノリ・セロテープ・ハサミ等)

※大量のクリアファイルを頂きました。

ご入用の方にお譲りします！

●たこの木通信PDF版お届け中：

通信のページ数並びに発行部数が増え続ける中、
よろしければPDF版で受け取り可能な方は
お申し出ください。

★引続き重度訪問介護対象拡大を巡るイベント実行委員募集中！

◎詳細は、たこの木クラブ岩橋までお問い合わせください。

【急募！！居宅介護崩壊！！介助事業所募集中】

- ◎多摩・府中で一人暮らしをしている/始める人の介助者を求めています。
朝夕・泊り・休日等、様々な要望があります。
派遣できる枠がありましたら、ぜひたこの木までご連絡ください。
- ◎30 年入所施設で過ごしている N さんの外出支援を担ってくれる人や
事業所がありましたら、ぜひお願いします！
岩橋と N さんとの外出支援。
自費対応なので、資格よりもやる気が大事。
後々、強度行動障害と評される人のヘルパーとして担うための研修の期待とするのもあります。
関心のある事業所もぜひご連絡ください！

たこの木関連本販売中！

「良い支援？」「ズレてる支援！」「支援のてまえで～たこの木クラブと多摩の四十年」
「知的障害・自閉の人たちと『かかわり』の社会学多摩とたこの木クラブを研究する～」
三井さよ

PDF 版たこの木通信 DVD(準備号～400 号) 頒価 3000 円

※たこの木ひろばで購入できます！

テレホンカード販売中:災害時、携帯よりも公衆電話の方がつながりやすい！500 度数
＝400 円でお分けします。NTT の固定電話の通話料金の支払いにもご使用出来ます。

急募！！たこの木通信発行作業を手伝ってください！！

ここ最近、人手が足りず集まった方たちの負担が増えています。毎月でなくても、
少しの時間でも結構です。たこの木通信の発行作業を手伝ってください！！

日時:毎月第 3 木曜日 10 時半頃～最大 17 時(作業が終わるまで)

場所:多摩市関戸公民館(作業する部屋は毎月変わります。通信でご確認を)

次回 2025 年 8 月 21 日は、午前・午後とも第一学習室(8 階)です。

※現在、ネットから PDF 版たこの木通信を無料でダウンロードできます。

人と人とのつながりを大切にしているたこの木としては、たこの木通信を介して
のつながりも大切にしたいと考えています。現在、登録制に向けて準備中。
ご理解とご協力をよろしくお願いします。

※YouTube たこの木チャンネル開設中！

※詳細は、たこの木ブログでご確認ください(<http://takonoki1987.seesaa.net/>)

相談支援は、いちばんたいせつなことは何も聞かない。

もう、4年も前に、船橋の福祉ネット工房の友野剛行さんが<相談支援専門員研修を受けて>という文章をフェイスブックに書いていました。その翌日には<つい魔がさして、2日連続相談支援について考えてしまった件>を(フェイスブックで検索するとでてくるはず)。

それが最近、相談支援を生業にしているばかりにとっても刺さったので紹介。この研修、こんな具合だったらいいです。

「障害者枠で働きたくない。普通に働きたい」「生活保護から抜け出したい」「普通に友達が欲しい」「就労支援は受けたくない。上から指示されたくない」「家の中まで入ってきて欲しくない」

こういうインテークから始まって、最後は、フルサービス漬けの生活提案。本人は納得いかず。でも「まずは見学しましょう。同行します」で最終的に計画を受け入れさせて、サービス漬けの生活を納得させたというシナリオ。

本人は派遣・アルバイトでも働いているのに、就労継続支援B型に入れ込んだらどうか。あり得ないんですけど。B型で、本人の望む「生活保護から抜け出す」は実現するんですか？

「友達が欲しい」に対して、すぐに「ピアグループ」を対置する。

おいおい。一日ロールプレイングを見て講義を聞いたけど、その人が、①いつも何をしている時が楽しいのか ②何が得意なのか ③昔はどんなことが好き・得意だったのか など、その人のワクワクにつながる情報は一切見えなかった。本人の声は聞こえなかった。

自分が何をしている時が楽しいのか、と無関係に「障害者の友達だから、ピアグループ」って、どんなえげつない差別よ！

好きなことを共有することから友達ってできるんじゃないのかい？

中略

「家の中に入ってほしくない」という人に「ヘルパー派遣」。

「思い出の詰まったものを捨てたくない」に対して「片付けの手伝い」と！

本人意思、全然無視！

(ほんの紹介してない89回目)

会場からも「この人は障害についての受容がない。だから自立訓練に入れて、自分の障害への理解をさせるべき」って！

おいおい！障害者は障害者らしくせよ！はみ出すなら放り込んで分からせてやる！

こんな感じ、リアルに想像は出来ます。そして、相談支援を生業にしている人間として、自戒しなきゃなあ、似たようなことがちだなと思ったのでした。だって、障害福祉サービスが必要という人から依頼を受けて話を聞いて、実はその人、障害福祉サービスが必要ない、っていう話になったら、相談支援での給付は出ないので。そんな仕組みだから、ついつい、この人が使うべき障害福祉サービスは何かなあと思ったりしてしまいます。まずいよね。

そして、こんな風にも書かれています。

最終的に本人がその支援チームを受け入れて「めでたし、めでたし」だったとしても、それは「飼ひ慣らした」という意味ではない。

飼ひ慣らさせる技術が、相談支援専門員に求められているの？

(中略、以下翌日の記事から)

相談支援専門員のみなさん、どうか頭の片隅に、いつでも「自分は権利侵害しているのかも知れない」という意識を残していただき、葛藤の中で仕事をしたい。多分その方が、いい仕事ができる。

いい仕事ができの方がいいよね。

(強調・引用者)

これを読んで、テグジュペリの「星の王子さま」を思い出したのでした。

おとなは、いちばんたいせつなことは何も聞かない。

「どんな声をしている？」とか「どんな遊びが好き？」「蝶のコレクションをしている？」といったことは決して聞かず、

「何歳？」「何人きょうだい？」「体重は何キロ？」「おとうさんの収入は？」などと聞くのだ。

そうしてようやく、その子のことがわかった気になる。

つるたまさひで(相談支援事業所ここん／丸木美術館／知的障害のある人の自立生活を考える会)

「旅」73

海の向こうには何があるのだろう。未だに行ったことのない国が多くあり、未だ見たこともないものがあるのだろう。

それらには不思議な魅力がある。ただ、残念なのは決して触れたり、見たり、体験できないという事実があるのである。

決して手に入らないものが私を取り巻いている。

私は20代の頃、カナダに行ったことがある。その時の目的は児童養護施設の交流であって、私個人の旅ではなかったが、それでも、素晴らしい体験と素晴らしい人に会うことができた。

ただ問題なのは私が精神を病んでいる為、外国へと旅立てなくなってしまったという事である。

旅は人を成長させる。しかし、現実には根っこの生えた人間になってしまった事である。

鷹野 洋(がんの ひろし) CVVの当事者スタッフ、元介助者

CVV(Children's Views and Voices)とは、子どもの視点と声を大事にしながら、養護施設などで育った経験のある人たちをエンパワメントすることを目的に活動している団体です。

『社会的養護の当事者支援ガイドブック

CVVの相談支援』

Children's Views & Voices+長瀬正子著

頒価：900円

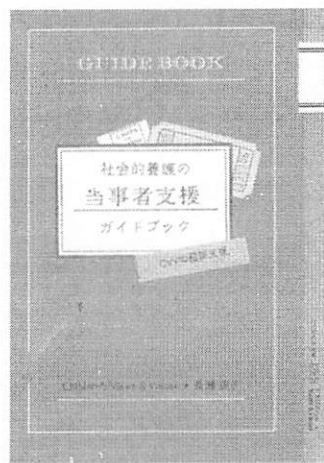
問い合わせ

大阪市北区西天満4-1-4 第三大阪弁護士ビル
503号 葛城・森本法律事務所内

CVV事務局

TEL：06-6130-2930 fax：06-6365-1213

MAIL：yes_cvv@yahoo.co.jp



愛チャン-00 Pasta 牧師

先生のお祈り。

Pastor 牧師先生は世間の人たちからは「Un Pasteur Priant」(フランス語で「お祈り好きな牧師先生」と言ういみです。)

Pastor 牧師先生はお祈りを始めました。「愛する天のお父様御名を感謝& 賛美します。神様 Uresino Global Chapel 内で嬉野 愛副牧師先が教壇に立ってる時にだけ私たち Christian にとってやってはいけない精神があります。」

「例えばマタイによる福音書5章27節～30節に「(27節)あなた方も聞いているとおり、『姦淫するな』と命じられている。(28節)しかし、私は言うておく。淫らな思いで他人の妻を見る者は誰でも、既に心の中でその女を犯したのである。(29節)もし、右の手があなたをつまづかせるなら、えぐり出して捨ててしまいなさい。体の一部がなくなって、全身が地獄に投げ込まれない方がましである。(30節)もし、右の手があなたをつまづかせるなら、切り取って捨ててしまいなさい。体の一部がなくなっても、全身が地獄に落ちない方がましである。」と言う御言葉があります。

神様、後このような御言葉もあります。彼らから悪魔を立ち去らせて2度と来ないようにして下さい。

そして他にマタイによる福音書4章1節～17節に次のような御言葉があります。それは誘惑を受けるとガリラヤで伝道を始めると言う箇所です。先ずは、1節から11節迄の誘惑を受ける。と言う箇所からです。『(1節)さて、イエスは悪魔から誘惑を受ける為、“霊”に導かれて荒れ野に行かれた。2節そして40日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。(3節)すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」(4節)イエスはお答えになった。

『「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つ言葉で生きる。」』

と書いてある。」「(5節)次に悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、(6節)言った。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。」

『「神があなたの為に天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たる事のないように、天使たちは手であなたを支える。」』

と書いてある。」「(7節)イエスは『「あなたの神である主を試してはならない。」』とも書いてある。』と言われた。(8節)更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世の全て国々とその繁栄ぶりを見せて、(9節)「もし、ひれ伏して私を拝むなら、これをミンナ与えよう。」と言った。(10節)すると、イエスは言われた。

By Sofia The Little Princes

#Shienin でけいど

浜島恭子

7 月後半、夏休み時期に入った。週 1 回 2 コマの学校アルバイトを始めて 10 年経つ(秋期からは 11 年目)。授業最終日なので、1 コマ目ではこの半年期の振り返り(大変だったことや秋期への抱負など)、2 コマ目では一人 3 分くらいずつ期末レポート課題へのフィードバックをした。同じ授業を 2 回繰り返す設定のはずなのだが、同じことはできず、毎回、<今回限りのカレーレシピで再現不可能な>授業になる。そういえば、月刊機関誌を編集していた 2000-2006 年ごろ、台割(ページ予定)が企画時点と原稿印刷入稿時点とで変わっていたな、と思いだす。実際に届いた原稿を見ると、どうしても順番が企画時点とは変わってしまうのだ。でもこれは、複数の人が関わって作る編集部では通らないことで、一人担当だからできることなのだろうな(私は企業に就職できないだろうなあ)と思った。

さて、高校から大学が変わって、人々はいろいろな経験をしている。日々新たな出会いがあったり、小テストに苦しめられていた学業の日々から「ぬるい」環境に変わったり、語学授業が苦痛だったり、早起きがつらくなったり、労働過重だったり。半世紀近く前には私もその移行期を経験した(そして病んだ)のだが、その時期辛かったこととして、①日々の生活に金がかかること(喫茶店代とか飲み会とか)と、②同じ科目の授業は週 1 回ずつであるため、週 1 回深い淵に入って、また出てくる—という繰り返しに馴染めなかったことを思い出す。

今期やったことを書いておく。

(1) 何か失敗と教訓の経験についての 4 コマ漫画を描いてもらう。その漫画について口頭で話してもらう(起承転結)。次に、<結論>から始まり、その元になった出来事に立ち返って経過を書いてもらう(おおざっぱなレポートの型を紹介)。

(2) 前回作業の元ネタである、渡邊雅子著(2024)『論理的思考とは何か』(岩波新書)の一部をコピーして配布。アメリカの小学生と日本の小学生の作文技法の違いについて述べた実験結果を報告している。この著者は、さまざまな国での学校で求められる作文の書き方について研究している。彼女の著書のおかげで、日本で求められるレポートの書き方がどこから来たのか、その書き方がよいとされる理由は何か(なぜこんな型の文章[序論・本論・結論]を書かされなくてはならないのか)について腑に落ちる説明をもらえた。理不尽なことを説明なしにさせている状態から少し抜け出せて、助かる。

(3) 教科書輪読。1 段落 1 意味と信じて、一行目をつないで読めば(だいたい)その説の要約になる(はず)という作業をする。10 年目の初期の頃は、要約作業をしてもらっていたのだが、何度かやるうちに、<自分がやりたくもない作業をさせられて、しかもそのうえそれが間違っている[誤読している]などと指摘されるのは、嫌なことだろう>ということをおもったので、やらない。自分が何か言いたい対象であれば、人は何とかそれを把握して言うものだ。それを邪魔しないように。

(はましまきようこ 雑読家ときどき支援員)

じゃすみん通信 ～第95回 ふざける の巻～

大野沙彩(じゃすみん)

基本的に私は「ふざけたい」。メンバーとのやり取りの中でもシレッとふざける。ボケる。もちろんそのボケに対して何のツッコミも返ってこない。それもまた面白い。こっちでボケてるのに、大真面目な顔してこちらを見つめられると余計可笑しい。ちゃんと突っ込まれるのの数倍、ちゃんと突っ込まれいている気がする笑。そんなこんなで、一旦はふざけたやり取りをしたくなっちゃう。

先日えるぶの玄関先で、インターホンをふざけて鳴らしていたメンバーがいて、そのやり取りを振り返ってみる。「ふざけて鳴らす」ことに対してこちらが「ふざけに乗って、ふざけて出る」ことによって、余計「ふざけて鳴らす」。それに対して、またふざけて出る。それを何回か繰り返すうちに、どんどん鳴らし始める。それはやりすぎだとこちらはふざけに乗らなくなる。そうすると余計またふざけて鳴らす…。と、文章にしてみるとなんだか下手な(と言っちゃうとなんだか語弊があるような気がするけれど、あまり深い意味はないです。)やり取りしてるなあと思う笑。「ふざけて鳴らす行為」に対してこちらも「ふざけて出る」というやり取りをすれば、そりゃあもっとふざけてくるよね。というのはすぐに分かる。分かってる。けど、やっぱり一回はふざけて出たい、と思ってしまう。やり取りを楽しみたい。そのメンバーが「ふざけて」インターホンを押しているのは明らか。ふざけるのは良くないからといって、いきなり「インターホンは押さないで」とは言えない。(もちろんマジでダメなことをふざけてしているのであれば、いきなり「ダメ」と言うこともあるけれど。)一度は「はいはいどちらさまですか～!!」とふざけたい。ふざけちゃう。どうしても。

こちらがふざけてインターホンに出ることによって、エスカレートする。それによって「ダメ」と注意されるのは当事者。可哀想?こちらの配慮が足りない?そうとも思う。けど、ふざけて出なくてもどうせ「インターホンはふざけて押さないで」と言われるのであれば、一度は楽しんだっていいじゃないかとも思う。楽しいやりとりをしたけれど、「それ以上はやりすぎ」という線をなんとなく分かってもらえるとも思う。もちろん、そううまくはいかないけれども。一旦ふざけておくと、「ダメ」というこちらの本気度が伝わりやすい面もあるよなあと、書いていて改めて思いました。さっきまであんなに楽しくやり取りしていたのに、急に表情変わったな、やりすぎたのかもしれない。と思ってくれるかもしれないし、そこまで思わなくても「ダメ」が伝わりやすいような気もしている。

そんなこんなで、ふざけたいのです、私は。大真面目に、ふざけたい。そうやって関係を作っていきたい。真面目に丁寧にやり取りをしている人を見ると、「私はあまりにも雑なのかな?」と自信を失いそうになることもあるのだけれど。でも「雑なのかな?」と思いつつも、いやいや私は私でみんなと関係を作っているのだから、自信を失う必要はないよなと思いつつ。でもまあ、時には真面目に丁寧にやり取りしても良いよなとも思ったり…笑。

どうにもこうにもまとまりのない文章ですが、お許しを。あまりそうは見られないことが多いけれど、私はおふざけ気質。ただし、陽キャではない。

世界の片隅で支援をつぶやく 123

長瀬翼

回復の呪文

～社会的養護で育つ子どもたちの暮らしの場所から～

灼熱の暑さが続いています。数日前からようやくセミの声が聞こえ始めました。セミが鳴き出すと、「いよいよ夏本番だな」と感じますが、ここから先は体力的にもしんどさが増してきます。

帯状疱疹は、ほんのり赤みが残る程度で、ほぼ回復しました。少人数で、気の置けない人たちとじっくり社会的養護について語り合う時間も持ちました。さらに、連れ合いに勧められて脳ドックなるものも受けてみました。「そろそろ平常運転かな」と思っていた矢先――

慣れない場で調子に乗って(崩した?)酒を飲みすぎ、人生初の記憶喪失を経験してしまいました。完全にバタンキューです。気がついたら自宅にワープしていて、連れ合いと近所のお父さんに介抱されていました。

「ここはどこ? わたしはだーれ?」

どうやら記憶をなくしていた間、僕はかなり迷惑をかけていたようです。「どうも、すみません」。

あっちへふらふら、こっちへふらふらで体のあちこちをぶつけたらしく、今は肋骨が痛みます。ほとぼりが冷めるまでは、目立たぬようにひっそりと生きていこうと思います。

京都から大阪へ電車で移動中。窓越しに流れる風景を眺めながら、「このまま旅にでも出たいなあ」と、またまたそんな思いがよぎりました。

50代を前にして、これまで以上に自分の体に目を向け、コンディションを整えていく必要性を感じています。

ではでは、またお会いしましょう。ごきげんようさようなら。

【人材募集】Nさんと私の外出につき合ってください！ 岩橋 誠治

44 年前に初めて出会い、我が家に何度も遊びに来たり泊まっていた N さん。今から 30 年前に都が建てた障害者施設に入所しました。

今で言うところの強度行動障害の N さん。20 歳になった彼の日々の激しい行動は家族のみで支え切れないのは当然で、N さんを知る地域のみんなで支える事を指向し動き始めたものの力足りず、ご両親と将来に向けた取り組みが共有できず、ゼロからの具体的な支援体制を築く過程も間に合わず、結果的に障害者施設への入所を選んだご両親の選択。正直言って親御さんの判断に怒りがなかったわけではありません。でも、両親を責める以上に私自身の力の無さを痛切に感じました。

30 年間会えずにいても常に私の中では、その時の状況も含め私自身の力の無さを悔やみつつも、今日に至るたこの木の取り組みの原点的存在としての N さんは私の中に存在する人になっていました。

私の心の中での存在 N さん。最近、ご両親が時を別に亡くされました。そして、視覚障害のお兄さんから入所施設のあり様を巡り相談されました。

再びつながった細い糸。「先ずは、相談に乗るために N さんに会いたい」と伝え、50 歳になった N さんと 30 年ぶりの再会を果たしました。

それ以後、何度か彼と外出を楽しんでいます。時に「兄とガイドヘルパー」・「N さんとヘルパー」+知人としての私の 5 人で出かけたり、「兄とヘルパー」・「N さんと私」の 4 人で出かけたり、先日は実家に行って食事会を開きました。

入所施設から「激しいこだわりのために薬で対応したいといわれた」とお兄さんから聞きました。30 年ぶりの再会を果たして以降何度も外出をともししているのですが、薬を必要とする人ではないと感じています。しかし、その一方で、入所施設という集団生活の場では、他の当事者たちや施設の都合で薬を使わないとそこでの暮らしが成り立たないであろうと悲しい現実として感じています。

今は、施設に声を挙げるのは視覚障害のお兄さんしかおらず、目にできない姿から施設側の話のみでやり取りするしかありません。

お兄さんの「せめて外出の機会を増やしたい」という想いを受け、先ずは N さんと外出する機会を作り、N さんを知る人たちを増やしていきたいと考えています。

先ずは、彼と関わってくれる人を集め、できれば週に一度は外出の機会が提供できればと考えています。

今は、視覚障害の兄が施設とやり取りしている状況ですが、彼を知る人たちが増える事で、彼の異なる面を施設に伝え、彼と出会った人たちとで N さんとその先についてともに考えられたらと願っています。

施設入所しているため移動支援を使うことはできませんが、自費対応が可能との事。

私はヘルパーとしてではなく知人として N さんとともに出かけたいと願っているの、実際には N さんと私の外出をサポートしてくれる人を探しています。

制度が使いにくい分資格等は必要ありません。故に「N さんに関わってみたい」「強度行動障害と評される人の支援を体験・勉強したい」「障害者施設での支援と地域での支援の違いを知りたい」等々。自由な想いでとにもかくにも N さんと私につき合ってくれる方を欲しています。

一緒に出掛ける事ができる個人でも、私も同行するので事業所として研修の場として位置づけでも良いので、関心のある方はぜひご連絡ください。

行ったり来たりして考えていることなど16

井上武史

ジュネーブの国際労働機関で障害者の問題を担当するステファン・トロメルに直接訊ねたことはないのだけれど、使うスペイン語から判断するとおそらくスペイン人だろうと思われます。

年配の長身の男性で、夏の暑い時期のジュネーブで会うときはノーネクタイのラフな服装にスニーカーだったのですが、先日4月にベルリンで再会したときには寒く、キリッとしたスーツ姿にネクタイで、国連のエスタブリッシュ然とした出立ちでした。

ぼくらが会うときにはいつも、障害者権利委員会の開催中であったり、集まりの最中であることが多いので、つねにどこかの国から来られた人たちの相談の相手をしていて、ぼくらもその合間に相手をしてもらっているということになります。

去年の5月にコロンビアのボゴタでRELAVINの初めての対面での集会を開催し、そこに国連障害者権利条約委員のアマリアをメキシコより招待しました。雨の日のデモにもいっしょに参加してくれて、その一挙手一投足が「ああこの人は本物だな」と思わせる彼女の滞在でした。

3月にも、メキシコの「障害者運動」のマルタといっしょにジュネーブの障害者権利委員会でプレゼンをしたばかりで、このときもまた「来てRELAVINのことを知ってもらったらいよいよ」と言ってくれていたのです。

ぼくが活動で心掛けていることがあるとすれば、大きな目標を設定したら、逆算してすべてがそこに向かうように設計してプロジェクト化することであろうと思います。これは、コスタリカでやっていたJICAのプロジェクトをやりながら覚えたことでしたが、そうでない、もっと日常的な小さな活動をやるときでも、周りの人たちはおそらく気づかないまま、同じような作業をしています。往々にして、人が何か活動をするときには、そのことしか考えない。多くの「活動のための活動」がなされており、そのときは楽しく充実感もあるものの、それだけで終わってしまうことがじつに多いのです。

ぼくは、何か一つ計画するときに、必ずそれがその次に与えるインパクトを考え、活動の一つ一つが孤立せず、シリーズとなって連なっていくように配慮するようにしています。そうすれば活動は、活動を呼んで止まることなく「運動」となる。そしてその運動は、最初に設定した目標へと向かっていくはずです。アマリアは誘ってくれたけれど、それだけでは行けないなとまず思ったのです。

しばらく頭と心の中でこの件を寝かせながら、5月のボゴタでの集会後の時間を過ごしていました。ぼくらの喫緊の課題は、進められているケアシステムの導入に棹さして、そこに障害者の意見を取り入れさせることにあります。ただ、ラテンアメリカの自立生活のネットワークでそれだけを訴えてもつまらないし、理もない。どうせなら、ぼくらが進めているようなそれを「自立生活センター」を介してやるやり方を加えた方がいいだろう。全体がそれで矛盾なく進められそうな感覚が掴めたので、案を文書にして障害者権利委員会事務局のチリ人ホルヘ・アラージャにメールしたのです。

フィットする支援をめぐる会

面会

鶴崎まゆ

6月13日。朝のひんやりした空気が日差しがジリジリと熱している。

私から朝一番の面会人！かと思いたけや。

門のところに すでに 2組のかたに会った。1組のかた 見えた。向かいの美容院の壁面はこぼれんばかり。満開のバラ。

会いに来てる人。中に 閉じこめられている人。毎日 中で暮らしている人の気持ちは、はかり知れない。

会いに来てるほう？ それぞれ、どんな気持ちだろうな。私には 下士に 会うのが 楽しみで、少し 高揚している。

一方で 待ち合の室で 待つ間。タピオガシャン ガシャン という音がして、なにか 冷たく、凍りつくような気持ちになる。

私語から 一切 耳を遠くから かくす。

「3番でお待ちのかた。面会室〇番にお入り下さい。」

今日は そんなに 待つ必要なかった。

短い廊下。右側の扉を開ける。ほどなく 下士が 刑務官のひとと 入ってきた。

席に変わる。さきく 下士から 話し始める。

作業中。私語は 禁止され、(ほかの) 時間も、中に いる人たちは どのような 交流が 可能なのか。

私には わからないけれど。自由に 思ったことを 思ったときに 表現することを 制約されている。それは 日常、からの 解放、が たいそう と思う。

下士は、「(フィットの会へ) 下士に、こんな本を送った。下士に 読んで 勉強してもらいたい」と 思ったから。」と 何度も 熱心に 話してくる。私は、中にいると 外のことから、うかがうから、ちゃんと 届いたか、気持ちに 伝わっているか、確かめたいのだから、と 思って、「わかった。下士に 確認、すれば、いいの？」と 聞いた。下士は「もう 手紙に 書いて 出したから いい。」

え〜?! じゃあ なんでも そんなに 熱く 手紙に 書いたんだったら、と ちやと ナンパ したか。予想 かな はずれるのは おもしろい と思った。

オンライン定例会。8月5日(土)20:00~21:30頃
042-389-1378・takonoki@dream.jp 横田氏。

カンパのお願い。面会の交通費などの資金が必要で、ご賛同いただいた方がカンパを募っています。
郵便局: 00130-7-359996 / 銀行: 〇九支店・当座 0359996 「フィットお支援をめぐる会」

私から「Yさんに おいしい料理のレシピを書いて 送ってあげたいんだわ。」「下士も ああいう料理が好きなの？」と 聞いた。「私は 魚が好き。(Yさんに 送ったレシピは 肉料理が多かった) あれは、Yさんの ことも 考えて、Yさんに おいしい料理も 書いた。」
下士から 相手の ことを とても 真剣に 考えて、コミュニケーション とうとして いることを 感じた。

「何か、今、困っていることは ない？」と 聞いた。下士から「失敗するんじゃないかと 心配。」と 下士から 言うので、私は「失敗は、誰に しても、やりたくなくて やってしまう。だから 失敗から 学ぶことが 大事かも。下士も そうでしょ。失敗しても がんばって カバーしたり、失敗したから、はじめて、わかる こともある。失敗は 悪いことばかりじゃない。」と つい 調子に乗って、エピソードを 話して しまった。うわあ、まさに、失敗。恥ずかし くなった。でも、見ると、下士から 真剣に ノートに それを書き こんで いる。ちやと びっくり。と同時に、下士の まじめさを 尊く 思った。

アクリル板を はさんで、向こう側の 世界と、こちらの 世界の 間には 非対称が 存在している。彼に 毎日 起きている ことと 下士は ともに 知り得ないから、そんな 中でも、彼は「支援者」で あり、私に 信頼 する しかない。私は 応えたい けれど、できない。

アクション。リアクション。リ・リアクション。リ・リアクション。やってみないと わからない。実行の 積み重ね。お互いに、こちらの 投げた ものへの 応答が 期待に 沿ったり、想定内 であるとは 限らない。期待を 裏切っている 時の方か。自分の 投げた ものから、そもそも 間違っている んじゃないか？ 相手の 配慮を 欠いて いたの じゃないか？ ということを 逆照射 する だろう。自分の 傲慢さを 検証 する チャンス かもしれない。
「そろそろ 時間です。」と 告げられ、席を 立たなければ ならない。名残 残り 多い。
「今日は、ありがとう。またね。」と 心から 言った。バイバイと 手を 振った。下士も 小さく 手を 振って くれた。

NPO 法人あしたや共働企画のページ

6 月のあしたやの定例会のテーマは、〈みんなの暮らし〉

障害者制度が措置制度から始まり、支援費制度、自立支援法と目まぐるしく変わり、現在は障害者総合支援法になりました。

現在の総合支援法の中でのみんなの暮らし方を話してもらいました。

1 人暮らし：5 人

2 人暮らし：1 人

実家：6 人

グループホーム：5 人

家族：2 人

というような感じで振り分けてみながら、次は制度の話でそれぞれの暮らしがどの制度に当てはまるかを話しました。

一人暮らしは居宅介護や重度訪問介護、2 人暮らしは居宅介護と重度訪問介護、実家はなし、グループホームは自立訓練、家族は重度訪問介護というサービスの振り分けになります。

ちなみに重度訪問介護とは、障害のある方の地域生活をサポートするサービスです。重度の身体不自由、または重度の知的障害、もしくは精神障害があり、常に介護を必要とする方に対してホームヘルパーが自宅を訪問し、入浴、排泄、食事などの介護、調理、洗濯、掃除、などの家事、生活等に関する相談や助言など、生活全般にわたる援助や、外出時における移動中の介護を総合的に行いますこのサービスでは、生活全般について介護サービスを手厚く提供することで、常に介護が必要な重い障害がある方でも、在宅での生活が続けられるように支援します。

あしたやでは施設から通ってくる人はいませんが、以前施設にいたということで、代表して私が施設にいた頃の話から自立に至るまでの話をしました。

施設では起床、食事、就寝と全て時間で決められており、病院のような生活です。

私のいた施設では、起床、食事、就寝の中に就労が含まれていました。

そんな生活を 10 年続けて自立しようと決意し、多摩市の自立ステーションつばさを訪ね、木村英子さんの元で自立生活の練習をし、16 年前に自立をしてその後結婚をし、家族と生活しています。

総合支援のサービスは私も旦那さんも重度訪問介護を使って生活しています。

(益永稲美)

も く じ

・表紙	1
・2025 年度たこの木全体会に報告	2
・政治は生活に直結しているとかっていうけど「生活」って何？	5
・たこの木を讀える回	7
・社会に向けて その 16	9
・荒井聡子	10
・たこの木インフォメーション	12
・相談支援はいちばんたいせつなことは何も聞かない（ほんの紹介 89 回目）	14
・「旅」73	15
・愛チャン・00 Pasta 牧師	16
・#shienin でけいど	17
・じゃすみん通信 ～第 95 回 ふざけるの巻～	18
・世界の片隅で支援をつぶやく 123 ～回復の呪文～	19
・【人材募集】N さんと私の外出につき合ってください！	20
・行ったり来たりして考えていることなど 16	21
・フィットする支援をめざす会	22
・あしたや共働企画のページ	23
・もくじ・編集後記	24
ねじり草 第 196 号	
・すいいち日記	2
・最近のすいいち企画	4

編集後記

・参議院選挙。今回の争点は「嘘か本当か？」という話になっている。
排外主義は正義であるかのように、嘘を物量で固められた嘘に対する真実を
流すことに費やされている。

・社会の中には様々な課題がある。その解決の一つの手立てが選挙だと思う。がしかし、
長年、選挙前になると良いことばかり並べ、選挙が終われば全く手のひらを反すかの
ように変な方向へと進めてきた嘘選挙。ところが、ここ最近は「言った者勝ち」みたいにな
っていて、真偽を確かめるためにネット検索すれば、そこでも嘘の情報がたくさん
流れていて、ネットに頼る人が本当だと思っても仕方がないように思う。

でも、その情報の真偽もさることながら、嘘が語られる事を望む人たちが増えている
ように感じる。真の情報であったとしても、その情報を自身の中でどう受け止めどうす
るかを考えるよりも、誰かに従うこ
とを良しとして、誰に従うかを探し
求める感。

・インターネットではなく、生身の人
間の出会いと出来事がつながる人タ
ーネットの必要性をひしひしと
感じる。 せ

発行人:障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072 世田谷区祖師谷 3-1-17-102
編集人:たこの木クラブ
〒206-0025 多摩市永山 1-1-4 ルミエール 103
☎/☎ 042-389-1378
定 価:100 円